

2022年3月12日(土)～13日(日)

旧東海道ブラ歩き(16) 岡崎宿一宮宿

今回は三河国岡崎宿から尾張国宮宿まで約34kmを1泊2日で歩いた。初日は前回の到着地岡崎公園から知立経由豊明まで19km、二日目は豊明から宮宿まで15km、歩数は初日43000歩、2日目38000歩、合計81000歩であった。今回の一番のハイライトは知立宿と鳴海宿の間にある日本遺産の街有松と桑名への船旅の出発点である宮宿の船着き場(今回の旅の終着点)、全国に名が知られる「あつた蓬萊軒本店」でのひつまぶし、そして熱田神宮であった。食事は初日は昼飯がコンビニのおにぎり、晩飯が知立駅前のまずい店と恵まれなかったが、2日目はランチが有松の手打ちうどんの寿限無茶屋、ディナーが蓬萊軒と誠に満足であった。また、知立のホテルは室内、従業員、朝飯も満足できるものだった。

今回は幸子の知人で結婚されるまで名古屋で過ごされた石原さんからリアルタイムでおいしい店に関する情報が入りこれが我々の旅を一層楽しくしてくれた。他方高校時代からの友人で新婚の数年間を知立の先の「前後(ぜんご)」という町で過ごした山下さんも一時同道の可能性があったが最終的にこれが叶わずこの点は残念な次第であった。

今回も少数だが東から西或いは西から東に歩いている人々を見かけたが、話をする機会はなかったのが一寸残念だった。

江戸時代は宮宿から桑名までは海路による七里の渡しだったが現在この便はないので次回は汽車で桑名に行き、ここから続きを始めることとなる。これで東海道53次のうち41番目の宿まで走破したことになる。あと3回の旅で京都三条大橋に着く計画である。

Day 1、 岡崎公園一豊明 3月12日(土) 快晴 日中暑し

5時台に家を出て6時28分のひかりで豊橋経由岡崎公園に8時半到着。直ちに歩き始める。8時42分1337年創業の「まるや八丁味噌」の前を通る。8時50分矢作川にさしかかる。渡り終わった所に蜂須賀小六と日吉丸(のちの豊臣秀吉)の出会いの像(写真1)がありその脇に由来を示す看板が立っている。蜂須賀家(徳島藩)は家内の淡路島の実家(伊藤家)と縁がある。蜂須賀家は外国船との戦闘用に船を所有していたがその必要性が薄れたのでこれを廻船業をしていた伊藤家が譲り受け商船として使って繁栄した(後に没落)。こうした関係もあって特にこの像に興味があったわけである。この場所は日本橋から328.3kmとの標識がある。ガイドブックによるとこの少し先が浄瑠璃の源義経と浄瑠璃姫の悲恋の物語の場所らしい。

10時過ぎ、全く休憩の場所がないので安城市のマクドナルドでコーヒーとアップルパイで20分休憩。10時39分、鎌倉街道分岐点にさしかかる。1192年鎌倉幕府が開かれると京都、鎌倉間に63の宿からなる鎌倉街道が定められた。11時前に安城市の永安寺で雲竜松を見る。樹齢推定350年、幹周囲4.4m。但し高さは4.8mと低い立派なものだ。11時10分、安城市の松並木にさしかかる。旧東海道はあちこちに松並木があって楽しい。お昼過ぎに来迎寺公園のベンチで一休み。持参した自宅近くのコーヒー屋のナッツクッキーを食べて空腹をしのご、25分間休憩。

この先で旧東海道から外れるが在原業平と杜若（かきつばた）で有名な無量寿寺に向かう。杜若の季節は5月なので予想通り全く咲いてなかったのが少し残念だった。ホテルで入手した知立市文化財マップによるとこの辺りは三河八橋と呼ばれていたようで、平安の歌人在原業平が伊勢物語でかきつばたの5文字を句頭に入れて

からころも きつつなれにし つましあれば

はるばるきぬる たびをしぞおもふ

（殻衣きつつなれにし妻しあれば はるばる来ぬる旅をしぞ思う）

と詠んだように伊勢物語の昔から知られるカキツバタの名勝地である。因みに、知立市の八つ橋一带はカキツバタが一つの売りになっているようだ。

同じ無量寿寺に芭蕉と弟子知足の連句があり、そのうち芭蕉の句は

かきつばた我に発句のおもひあり

折角ここまで回り道をしたので、ついでに鎌倉街道沿いの在原寺（ざいげんじ）に寄ったが住職も亡くなっており手入れが出来ていない様子であった。ここから旧東海道に戻ったが1キロくらいの寄り道だった。旧東海道添いのこの辺りの民家は庭をきれいに手入れしているところが多く、そのうちの何軒かは梅が満開だった。

14時、空腹のためコンビニでおにぎりを買って松並木のベンチで食べる。ここから知立市の綺麗な松並木を歩く（写真2）。

14時半頃、旧東海道の39番目の宿、知立（ちりゅう、池鯉鮒とも書く）の道標を通過。広重の東海道五十三次の絵では池鯉鮒の表現を用いている。知立の街並みに入ったところに39と言う建築デザイン賞を受けた洒落たカフェがあったのでコーヒーとケーキで休憩。そのまま知立を通り過ぎ16時10分、刈谷市に入る。江戸から341キロの道標あり。更に歩き続けて、三河と尾張の境川にかかる境橋を渡り尾張に入る。ここからは三河ナンバーから名古屋ナンバーとなる。

17時半、名鉄豊明駅に到着、ここで本日は打ち切り、電車で知立に戻り、不味い夕食をたべて、ホテルクラウンパレスに19時15分投宿。ホテルでは知立に関する各種のパンフレットをくれる。スタッフの対応が良く部屋も満足。残念だったのはコロナの影響で3つあるホテルのレストランが夜は全て閉まっていたことだった。

今日は気温が20℃を超えていたらしく歩行途中で暑くなり襟巻きをとり、着ていたセーターを脱いで歩いた。春を実感した一日だった。

尚、知立はむかし馬の市が開かれていたこともあり、馬で有名で広重が描く絵も馬市の絵である。

Day 2 豊明一宮宿 3月13日（日）晴、日中暑し

ホテルでゆったりと朝食後近くの知立駅まで歩き名鉄で豊明駅着、早速歩き始める。今日は最初から襟巻きとセーターをリュックにしまい、途中からは上着まで脱いで歩くほどの暑さだった。暑さがほどほどのうちに京都に着きたい。

知立市のすぐ西が豊明市、ここまでが三河、その先が尾張のようである。豊明の一駅先が「前後」駅なので駅まで行き写真を撮ってその場で山下さんに送る。午前9時。

45分ほど歩くと左側の小高い丘が桶狭間の古戦場跡だ。大群を擁する今川義元が織田信長勢の奇襲で敗れ、義元自身も討ち取られた有名な合戦で、案内書には義元の墓や戦死位置を示す碑などがあると書いてあるが、他方で合戦の場が必ずしもここと特定されているわけでもないともあるので、遠くから丘の写真に収めただけで立ち寄りなかった。

10時丁度に有松の街並みにさしかかる。全ての民家に有松絞りで「ありまつ」の4文字がかかっており、この季節は家の格子や場合によっては屋根の上までひな人形が飾られているのに驚かされた（写真3）。

町に入ってすぐに有松山車会館がある。ここには有松のお祭りに使われる3つの山車の一つ神功皇后車が展示されている。この山車は実に見事だ（写真4）。皇后は1階からは見えないので2階に上がる。写真は2階から撮ったものである。1階ではビデオでお祭りの様子の解説があり、そこで太鼓も打たせてくれる。更に山車に乗せるからくり人形の紐を引っ張って人形を動かすことも出来る。我々が年寄り夫婦で日本橋から歩いてきたというので係りの女性が、我々が移動しなくて良いように太鼓をそばまで運んでくれたり坐るのが大変なので靴まで履かせてくれようとしたりと、えらい親切にしてくれ大変良い気分で

見学できた。ここを出たのが 10 時半、それから町の有松絞の店に入って色々とみて歩く。中には寛政 2 年 (1790 年) 創業の店で倫敦やパリの博覧会で賞を取ったような店もある。しかしそのほとんどは所謂ショーウインドウがなく、引き戸を開けて入る。そうした中の一軒に話し好きの女性がいる店があり、幸子はそこで大分買い物をした。その女性は明日は歌舞伎座で芝居を見るが、何とか言う役者が病気で出ていないので寂しいと言っていたのには驚いた。そうこうしているうちに寿限無茶屋が 11 時に開店したので早速飛び込み天コロ (天ぷらそばのうどん版のようなもの、但し冷たい) を注文したがこれが大変おいしく満足。ここは友人の吉田さん達が 20 年前に入ったところ。その後も他の有松絞の店で買い物をしたりなどで、かれこれ 2 時間ばかり街を楽しんだ。街並みも十分に美しい。

有松から 2 時間ばかり歩いて 14 時頃笠寺の一里塚にさしかかり、その後 30 分ほどで東海道と鎌倉街道の分岐点を通過する。暫く行くと珈琲屋があったのでコーヒーとケーキで 25 分ほど休憩、15 時頃歩行を再開し暫くすると愈々宮宿だ。幸子が案内書を見ながら慎重に道を見極め 16 時遂に宮の渡し公園に到着、その海に突き出たところが昔の船着き場で旅人はここから海路桑名に向かった場所である。幸子と二人で思わずヤッターと (小声で) 叫ぶ。近くにいた若い女性に頼んで二人並んで記念写真を撮って貰う (写真 5)。

実は宮宿に来るまでの間多くの人から熱田にはウナギで有名な蓬萊軒があるとの話を聞き、小生のバイオリンの先生で読響の田村先生も行かれたことがあると言い、更に前記幸子の知人の石原さんからの強い勧めもあり、我々もぜひここで「ひつまぶし」をトライしようと思っていた。丁度宮宿の船着き場跡迄 5 分ほどのところにたまたま蓬萊軒の本店があり (写真 6) 午後 4 時過ぎにここを通りかかると既に一家族が並んでいる。聞くと 16 時 20 分から受付開始で第 1 ラウンドの人たちは 16 時半から入場可能とのこと。いくら何でも時間が早すぎるし先ほどの珈琲屋で食べたアップルパイが大きかったこともあってお腹は少しもすいていない。そこでまずは旅の目的を優先すべく本日の終着点に向かったわけだ。ここで漸く感激に浸ったあと 16 時 20 分頃蓬萊軒に戻ってくると、驚いたことに既に数十人が列を作っている。我々も慌ててその列に加わり、何とか第 2 陣の 16 時 40 分の予約が取れた。名前を呼ばれてテーブルに着くとすぐに注文が出来、おいしい日本酒とひつまぶしを堪能した。幸子はここで石原さんとほぼリアルタイムでラインのやりとりをして石原さんを羨ましがらせている。先ほどのアップルパイもあってとても食べられないと思ったがあまりにおいしく 3/4 程あつという間に食べ、残りは先方のすすめで Take-out の容器に入れて持たせてくれた (帰宅途中近くに住む娘に届けた)。それにしてもあれだけの人数を待たせないで捌いていくのは凄い。お客には結構若い人もいたが、ほとんどの人がうまいうまいと言っている。我々もその 1 組である。ここで大いに堪能し、折角なので 10 分ほど歩いて熱田神宮へ行く。神宮には南から入ったが鳥居を潜ってから本宮までがかなりの道のりである。日本酒で酔っ払っているのでここはかなりこたえた。参拝を終えて

再び元の道に戻ってから神宮前駅を探して名鉄で名古屋駅に向かったが、あとで地図を見ると本宮からそのまま東に進めば駅はすぐ近くだった。名古屋について時間があつたので石原さんに聞いたお菓子のうち何とか売り場を見つけられたものを買ひ、19時31分発ひかりに乗って21時5分品川着で21時半頃無事帰宅した。

2日間の総経費は交通費26740円、食費21300円、宿泊費14000円、その他21000円、計83000円（前は2泊3日で71000円）だったが今回はおいしいものを食べて食費がかさみ、有松での買い物が重なって出費が嵩んだ。

次回は1泊2日で亀山宿を目指そうと考えている。だんだん京都が近づいてきた。



写真1 出会いの像（蜂須賀小六と日吉丸）



写真2 知立の松並木



写真3 有松の民家（格子に人形が見える）



写真4 有松の神功皇后山車



写真5 宮宿（七里の渡船着場跡）



写真6 あつた蓬莱軒本店